

学年	教科等	主題(教材)名	日時
第2学年	道徳科	正しいと思うことを (ある日のくつばこで)	令和6年2月9日(金)

1 本時の目標

まり子の心が曇っていたときと、心が晴れてきたときの心情を比べることをとおして、正しいと思うことを行うことよきさに気づき、進んで行おうとする心情を養う。

2 指導過程

学習活動及び学習内容 (★は評価にかかわるもの)	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 具体的な場面を基に自分の行動を考え、主題についての問題意識をもつ。</p> <p>◇ 仲のよい友達が、シャープペンシルを持ってきていたらどうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「だめだよ。」って注意する。 ・ 特に何も言わない。 ・ 言ったら仲が悪くなりそうだし迷う。 等 <p>○ 学習テーマ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">注意をするか迷ったときは・・・</p> <p>2 読み物教材「ある日のくつばこで」を視聴し話し合う。</p> <p>○ まり子の心情について</p> <p>◇ 「だれにも言わないで」と言われた時にどう思ったのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このままにしていいのかな。 ・ 注意しなくてもいいのかな。 等 <p>◇ としおが靴を靴箱に戻したのに、なぜまり子は悲しそうな顔をしているのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かずみさんの行動をそのままにしていいのか考えているのではないか。 ・ かずみさんから嫌われたり、嫌なことを言われたりしないか心配。 等 <p>◇ まり子はこの後、どうしたのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直接かずみに注意したと思う。 ・ 先生に相談したかもしれないね。 等 <p>◇ まり子の心が晴れてきたのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 迷っていた気持ちがなくなったから。 ・ 正しいと思うことをすることがよいと考えたから。 <p>3 自分の経験をふりかえり、主題についての考えをもつ。(★)</p> <p>○ 主題に対する自分の考えについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 注意するのは難しいこともあるけど、勇気を出して行動しよう。 ・ 正しいことをするというのは、すっきりとするから、自分もそうしていきたい。 等 <p>○ 主題につながる日常の様子について</p>	<p>○ 具体的な場面を基に、自分だったらどうするかを話し合わせ、よくないと思った行動に対する自分の行動について目を向けることができるようにする。</p> <p>○ 注意をするという発言に対して、「仲のよい友達に注意できるかな。」と問い返し、実際の生活場面では、なかなか注意できないこともあることを想起させ、問題意識をもつことができるようにする。</p> <p>○ 「だれにも言わないで」と言われたまり子の心情を問うことで、注意したい気持ちもあると同時に、このような状況ではなかなか注意できないまり子の気持ちを共感的に考えることができるようにする。</p> <p>○ まり子の悩む理由をグループで付箋を用いながら話し合うことをとおして、正しいことをすることの難しさや、それでも正しいことをしていきたいという気持ちがあることについて多面的・多角的に考えることができるようにする。</p> <p>○ その後のまり子の行動を考え、意見の交流を行う。その際に、その行動の理由についても話し合わせることで、正しいことは人によって違うことに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 心が曇っていたときと対比して板書し、正しいと思うことを行おうとするときは、心が明るくなることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 板書を基に、導入場面や主題についてふりかえることをとおして、主題について考えたことや学んだこと、これからの自分の生き方について、ノートに書くことができるようにする。</p> <p>○ 主題につながるこれまでの日記等を紹介し、その時の気持ちを問うことで、正しいと思うことよきさについて気づき、余韻をもって授業を終えることができるようにする。</p>

本時の評価規準

まりの心情が変化した理由について考えたり、これまでの自分の考えをふりかえったりすることをおして、正しいと思うことを行うことによさに気づき、進んで行おうとする思いを高めている。

【道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか】

4 板書



5 指導講評

宮崎県教育庁 義務教育課 西川 元 指導主事

- 道徳科の授業においては、本日の授業のように安心できる学級づくりが大事である。
- 附属小学校の研究と「ひなたの学び」はめざすところが同じである。
- 深めるという視点からすると、「心が晴れてしまいました。」のところが少しあっさりしていたようにも思う。もう少し広げると価値にもっと迫れたのではないか。しかし、ふりかえりの子どもの発言を見ると、ねらいについてよく書かれていた。
- 子どもの考えや、疑問に寄り添って授業を進めているが、指導のねらいをしっかりともちながら授業を行っているため、ねらいがそれることがなかった。子どもが「自律的に学ぶ」ためには、教師がしっかりとねらいをもちつつ、子どもの考えを生かしながら授業をつくることが大事である。

6 考察

(1) 道徳的問題を「自分事」として考えるための手立てについて

- ・ 導入場面において、教材文のなかにある道徳的問題場面と似たような場면을提示し、「自分だったらどうするか。」と問うことで、学習前の自分の考えを自覚する子どもの姿が見られた。また、終末のふりかえりを書く際に、自分の考えの変容や深まりをより自覚するような発言やノート記述が見られた。
- ・ 終末において、子どもの日記を紹介しようと計画していたが、今回の主題に関するような内容が見られなかった。日常のなかに主題につながるような場面がないか、日頃からよく観察をしていきたい。

(2) 子どもの多様な考えを引き出し、多面的・多角的に考えるための手立ての在り方

- ・ 主人公の気持ちをグループで話し合う際に、付箋を使って画用紙にまとめるようにした。子どもは、仲間の考えを聞きながら、比較したり関連したりして、発言をする順番や貼る位置を考えていた。また、貼った付箋をグループ分けし、考えを要約してまとめたり、関係を矢印で表したりしている姿は、多面的・多角的に考えている姿ではないかと考える。2年生であっても、このような手立ては有効であると考えられる。

(3) 道徳科における「自律的に学ぶ」子どもの姿

- ・ 今回、子どもが互いに「なぜですか?」「どうして、そう思ったの?」等の質問を互いに行いながら学ぶ姿が見られた。また、「どうして、くつが元に戻ったのに悩んでいるの?」というつぶやきを取り上げ、問題意識を高めてから、学習を展開していく場面があった。このような、子ども自らが問いをもつことは、道徳の学習においても大切であり、自律的に学ぶための「動機付け、見通し」につながる姿だと考える。